

令和4年 網走市議会  
総務経済委員会 会議録  
令和4年10月11日（火曜日）

○日時 令和4年10月11日 午前10時15分開会

○場所 議場

○議件

1. 議案第1号 令和4年度一般会計補正予算  
中、所管分

○出席委員（8名）

|      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 小田部 照  |
| 副委員長 | 山田 庫司郎 |
| 委員   | 栗田 政男  |
|      | 立崎 聡一  |
|      | 永本 浩子  |
|      | 平賀 貴幸  |
|      | 古田 純也  |
|      | 村椿 敏章  |

○欠席委員（0名）

○議長 井戸 達也

○委員外議員（0名）

○傍聴議員（6名）

|       |
|-------|
| 石垣 直樹 |
| 金兵 智則 |
| 工藤 英治 |
| 近藤 憲治 |
| 澤谷 淳子 |
| 松浦 敏司 |

○説明者

|         |       |
|---------|-------|
| 副市長     | 後藤 利博 |
| 観光商工部長  | 伊倉 直樹 |
| 財政課長    | 古田 孝仁 |
| 商工労働課長  | 北村 幸彦 |
| 観光商工部参事 | 高橋 優紀 |

○事務局職員

|        |        |
|--------|--------|
| 事務局長   | 林 幸一   |
| 次長     | 石井 公晶  |
| 総務議事係長 | 法師人 絵理 |

総務議事係 早 渕 由 樹

総務議事係 山 口 諒

午前10時15分開会

○小田部照委員長 おはようございます。

ただいまから、総務経済委員会を開会いたします。

本日の委員会ですが、付託されました議案1件について審査いたします。

それでは、議案第1号令和4年度網走市一般会計補正予算中、価格高騰対策事業、地域応援商品券事業について説明を求めます。

○北村幸彦商工労働課長 議案資料2ページを御覧ください。

令和4年度一般会計補正予算、商工振興費、地域応援商品券事業について御説明を申し上げます。

1、補正の理由及び内容ですが、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、コロナ禍における物価高騰に対する生活支援及び地域内の消費の喚起を図るため、必要な経費を追加補正するものでございます。

経費の内訳は、商品券、チラシの印刷費などが340万9,000円、商品券の配布の案内、はがきなど郵送料が140万3,000円、商品券の配布、換金登録事業者に関する事務などの業務委託費として360万円、使用された商品券の換金交付金として2億800万円、事業費の合計は2億1,641万2,000円でございます。

2、補正額、（1）歳出予算は2億1,641万2,000円で、財源内訳は国庫補助金が1億2,387万7,000円、基金繰入金が9,253万5,000円でございます。

（2）歳入予算は記載のとおりでございます。

3、事業の概要ですが、地域応援商品券を市内全世帯へ配布するもので、商品券の金券額面が1セット1万円、配布数は、一般世帯は1世帯当たり1セット、高校生以下のいる子育て世帯は1世帯当たり2セットの配布で、各世帯に送付する案内はがきとの引き換えによるものといたします。

商品券の配付時期は、12月1日を予定しており、商品券の使用期間は、令和5年2月28日までの3か月間といたします。

説明は以上です。

○小田部照委員長 それでは質疑に入ります。

質疑ございませんか。

○永本浩子委員 地域応援商品券なのですが、1万円セットで、一般世帯が1セット、子育て世帯が2セットということなのですが、使える先というのは、今、10月31日までのプレミアム商品券がありますけれども、そこと同じような感じなのでしょうか。

○北村幸彦商工労働課長 現在やっている商品券事業につきましては、今月いっぱいまで使えるということで行っております。

今回ですね、提案させていただいた消費基準につきましても、現在、取り扱っていただいている事業者に対しまして、改めて確認をさせていただいた中で、継続して使えるような形にしていきたいと考えております。

○永本浩子委員 今、対象になっている市内ほぼ全域のお店で使えるということですね。

そして、この一般世帯1セットということなのですが、この後、非課税世帯の物価高騰対策が出てきますけれども、非課税世帯とも関係なしに全世帯にということではよろしかったですか。

○北村幸彦商工労働課長 委員おっしゃるとおりでございます。

○永本浩子委員 そしてまた、子育て世帯ですが、これは高校生以下のお子さんがいらっしゃる家庭ということで、12月1日に配布時期ということなのですが、お子さんが新しく生まれるところというのは、1日までにお子さんが1人でも生まれればそこも対象になる、その線引きみたいなものは、どういうふうになっているのでしょうか。

○北村幸彦商工労働課長 今回の商品券事業につきましては、10月1日現在の世帯状況に基づきまして配布しようと考えております。

○永本浩子委員 では、10月1日現在にお子さんがいらっしゃるということ、その後、10月2日にお子さんが生まれても、そこは入らないということで了解いたしました。

以上です。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

○村椿敏章委員 今回の商品券事業ですが、まず、この価格高騰ということで国からの臨時交付金という形で出てきていると思うのですが、国から入ってくるというふうになったというのは、

4月とか5月とか、その頃なのかなと思ったのですが、最近、新たに国から入ってくるような形になったのですか。

○北村幸彦商工労働課長 今回、価格高騰の交付金につきましては、最近になりまして交付されるということで、最近ですね、配分額が決まって示されたというところでございます。

○村椿敏章委員 最近になって配分額が決まったということですね。

ちょっと疑問に思ったのは、9月に議会が行われていたのですが、この高騰という部分でいくと、もっと早くから進めてもよかったのかなと思ったものですから、それで今、その配分額っていうのですか、その辺が最近になって決まったのかどうなのかっていうのが若干疑問だったのです。そうすると、9月議会ではこの案件というのは、当然想定はされていなかったということですか。

○北村幸彦商工労働課長 今回の価格高騰の配分につきましては、国のほうでの予備費を活用した配分となります。

いろいろと情報はあったのですが、9月議会に提案するまでに金額の提示がなかったということで、今回の提案ということになったところでございます。

○村椿敏章委員 わかりました。

最近になって、その部分がわかったということは了解しました。

あと、このスケジュールなどについては、はがきで配布する、引換券を配布するというものですが、スケジュールはどのような形になりますか。

○北村幸彦商工労働課長 今回の商品券で、一番時間がかかるのはですね、商品券の印刷にかかる日数になります。

ちょっと印刷業者ともですね、打合せをした中で、ホログラム、偽造防止の加工がございますので、現状の印刷業界の繁忙期ということもございまして、印刷ができ上がるまでに1か月半は見てくださと言われております。

これから始めますと、最短で12月1日からの配布ができるのかなという考えでございます。

○村椿敏章委員 1か月半かかるっていうのは、本当に大変ですね。了解しました。

○小田部照委員長 ほかにいかがですか。

○古田純也委員 この金券の配布方法なのですが、郵送なのでしょうか。それとも、取りに来て

もらう。

**○北村幸彦商工労働課長** 今回もですね、各御家庭にですね、世帯ごとに案内のおはがきを出します。

そのおはがきとの引換えという形で配布するというような流れになります。

**○古田純也委員** 引き換える場所っていうのは、もう具体的に案があるのでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** 現在ですね、進めているところが、エコーセンター、市役所、土日につきましては、潮見コミセン、南コミセンという場所を考えております。

そのほかですね、郊外地区も4か所程度、現在行っている商品券と同じような形の配布を考えておりまして、特設販売以後につきましては、市役所のピロティ等で配布を考えております。

**○古田純也委員** 市内全世帯の配布を目的にされている事業だと思いますので、なかなか取りに行けないだとかという方々のフォローというのは、どのような体制を整えているのでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** 基本的に、お知り合いの方とかですね、そういう方に交換という形をお願いしたいと思っていますけれども、全世帯ということになりますので、ちょっとこれまで経験したことがないのですけれども、そういう問い合わせがございましたら、ちょっと柔軟に対応したいとは考えております。

**○古田純也委員** わかりました。

ちなみにこの1万円という額に設定されたのは、何か根拠があるのでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** \_\_\_\_\_  
—（12字取り消し）が、現在、販売している商品券につきましては、1世帯当たり3,000円のプレミアム、各世帯は2セットまで、子育て世帯が3セットまでという形でプレミアムがついているのですけれども、今回、価格の高騰が長期化していることをごさいますて、1世帯当たり1万円という形の設定をさせてもらったところでございます。

**○古田純也委員** わかりました。

**○小田部照委員長** ほかの委員いかがですか。

**○平賀貴幸委員** 今の答弁も踏まえながら、ちょっといろいろと聞いていきます。

ただ、その前に確認をしたいので、基本的なことを伺いますけれども、これ9月9日に内閣府の地方創生推進室から事務連絡通知が来ていますけれども、その電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地

方交付金を一部活用する事業というふうに理解してよろしかったですか。

**○北村幸彦商工労働課長** そのとおりでございます。

**○平賀貴幸委員** この通知と一緒に網走市の配分額っていうのは、連絡があったというふうに理解していいのでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** 大変申し訳ございません。ちょっと私のほうで配分された時期というのは承知していないところでございます。

**○平賀貴幸委員** では、この地方交付金の網走市における配分の総額っていうのは幾らなのでしょう。

**○北村幸彦商工労働課長** 今回の配分の額につきましては1億1,689万円というふうに伺っております。

**○平賀貴幸委員** それを振り分けていくという形なのですね。総額は理解しました。

それを使って、ふるさと基金のふるさと納税の部分の頂いたお金と合わせて、基金と合わせて、こういう予算化したということなので、理解はできるのですけれども、まず、全世帯に渡すもののなのに、引き換えはがきが必要だっていうやり方を取ったっていうのはなぜなのか、そこの辺をもうちょっと説明していただきたいと思います。

**○北村幸彦商工労働課長** 現在やっている商品券もそうなのですけれども、まず、はがきを全世帯に発送するだけで、届くのにはタイムラグがあるのですけれども、1週間程度かかります。

今回、商品券も印刷にちょっと日数がかかるということで、11月末ぎりぎりの納品を予定されております。

市民の皆様は早く使っていただきたいということで12月1日を目指してやるのですけれども、商品券が納品されてから封詰めに日数がかかることと、金券を送付するとなれば、簡易書留等の送付になります。そうなりますと、今の試算でいくと、簡易書留が400円を超えるぐらいの程度が1通でかかります。郵送費だけで720万円程度かかることと、あと簡易書留にしますと、御家庭にいる方の確認も取りましますので、送付して手元に届くまでも、またさらに時間がかかるということで、ちょっと市民の皆様には、お手数なのですけれども、引き換えという手法を取らせていただいたところでございます。

**○平賀貴幸委員** 引き換えなのですね、そこはわか

りました。

入院されていて、はがきが手元に届かなかったという方がいらっしゃるようなことは、多分想定ができると思うのですけれども、その場合についてはどうなるのですか。

**○北村幸彦商工労働課長** 今回、引換えにつきまして、基本的なお話なのですけれども、引換えにしましては、窓口に来られた方の本人確認をさせていただき、御家族ではない方はですね、第三者になれば委任状的なものを頂いた中で、確認をさせてもらおうと思っております。

入院されていて届かない方というのが全部市のほうで把握できないかと思うのですけれども、問い合わせ等ございましたらですね、その辺も柔軟に対応していきたいと考えております。

**○平賀貴幸委員** できるだけそこは柔軟に対応していただければと思います。

そして、先ほど（8字取り消し）というふうに御発言があったのですけれども、それは政策を決定するのに（8字取り消し）ということは、基本的にあり得ないと思っているので、PDCAサイクルを回せなくなりますから、もうそのその時点でちょっとおかしい話になるので、確認のために伺わせていただきますけれども、物価高騰に対する生活支援、それから地域内の消費を喚起するという二つの側面が今回の施策にはあるのだというふうに思います。

もちろん、国からの交付金があったからこういう事業ができるってということになるわけですが、国としても物価高騰対策が必要だ、それから地方の消費の喚起が必要だということで、根拠をもって財源を決めてきているはずですから、自治体で（5字取り消し）という話はないのだと思うのですよね。

それで伺いますが、まず、地域内の消費の喚起には、今回の1世帯当たり1万円の商品券で、どのぐらいの影響を与えるというふうに考えていらっしゃるでしょうか。

**○小田部照委員長** 暫時休憩いたします。

午前10時31分休憩

午前10時48分再開

**○小田部照委員長** それでは、再開いたします。

平賀委員の質問に対する答弁から。

**○北村幸彦商工労働課長** まず、1セット1万円にした根拠という形で、先ほど（8

字取り消し）という形で申し上げましたが、考えといたしましては、今回、配分されました交付金、これを1世帯当たりに換算しますと、約6,500円程度ということになります。

昨今ですね、この物価高騰に対しまして、6,500円ということにもなかなかならないのかなという判断でございまして、1セット1万円が妥当ではないかという判断でございします。

足りない分につきましては、基金を活用してもらった中での金額とさせていただいたところでございます。

また、経済波及効果という話でございしますが、一般的にですね、プレミアム商品券事業につきましては、プレミアム分の約3割程度と言われておりますので、今回全額、無料配布ということになりますので、2億円の予算額といたしますと3割の6,000万円程度が経済波及効果額となるものと見込んでおります。

**○平賀貴幸委員** 6,000万円程度が、経済波及効果になるという想定だということはわかりました。

もう一つ、物価高騰に対する生活支援及びというふうになっていますので、最初の物価高騰に対する生活支援の効果というのは、どのくらいあるでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** 物価高騰に対する生活支援の効果額というのは、データというかですね、ちょっと持ち合わせていないので、わからないところなのですけれども、金券を配るという形になりますので1世帯当たり1万円、子育て世帯であれば2万円、この分が物価高騰に対してですね、少しは緩和されるのではないかと考えております。

**○平賀貴幸委員** 少しは還元がされるとか効果がある、それはそのとおりなのだと思います。

ただ、税を使って予算組みをする以上、一部基金ですけれども、これもふるさと納税が原資ですから、税なのだと思います。

税を使って予算立てしていく以上、施策の効果というのは一定程度見通して、事業を組み立てて、実施した後、検証をして、再度また新たなプランをつくって取り組んでいくというのが、PDCAサイクルというサイクルなのだと思うのですよね。

それは、先日終わったばかりの決算審査特別委員会のときですら、さんざんですね、議論をされてきたのですけれども、今の御説明を聞く限り、この事業はそもそも、PDCAサイクルを回す想定はして

いないというふうに思っちゃうのですけれども、それでいいのでしょうか。私はいいと思わないのですけれども、もうちょっと施策をつくるための根拠っていうのは、しっかりしなきゃいけないと思うのですけれども、どうお考えなのでしょうか。

○小田部照委員長 暫時休憩いたします。

午前10時52分休憩

午前11時11分再開

○小田部照委員長 それでは、再開いたします。

平賀委員の質問に対する答弁より。

○北村幸彦商工労働課長 委員お尋ねのPDCAサイクルという話でございます。

まずですね、総務省の家計調査を基に民間の会社が積算した金額がですね、年間、物価高騰に対する2人以上の世帯では家計の負担が6万8,000円程度増加しているという形のデータがございます。

今回、この商品券の授与につきましては、一般世帯が1万円、子育て世帯が2万円という配布になりますので、一般世帯であれば約2か月程度、子育て世帯は4か月程度の負担額増に対して補えるという金額になるかと思えます。

御指摘のありましたPDCAサイクルにつきましては、ちょっと、どのような形の検証がいいのかっていうのが、なかなかデータがない中で難しいのですけれども、こういう民間企業の調査なりをですね、あと国の調査、こういうデータを基にしながら、どれだけ効果があったかというところを検証しながらですね、進めてまいりたいと考えております。

○平賀貴幸委員 民間の調査をベースに、どの程度の対策になるかということは、今説明がありましたが、この手の事業を進めるときに、ここ二、三年言われ続けたことがあることを、お忘れではないかなと思うのですけれども、網走市が直接、企業の場合はですね、どんな状況、各店舗の状況はどうかかっていう実態調査をすべきだっていうことを何度も言われたのですけれども、なかなかできていないというような現状があると思えます。

今回は、たまたまその全世帯の商品券を配るという形ですから、逆に網走市がですね、一般市民の皆さんの実際の生活にどのぐらいの影響が出ているのか、アンケート調査を実施して状況をつかむチャンスだと思うのですよね。それを紙、質問用紙1枚、あるいはQRコードで答えていただくような仕組みのあるものを配付して、施策としてしっかりつかん

で次の事業をまた考えていくっていうことに生かせるチャンスになると思うのですけれども、その辺の考え方はお持ちじゃないのでしょうか。

○北村幸彦商工労働課長 委員より御指摘というか、御意見がございましたので、その辺も踏まえて検討してまいりたいと考えております。

○平賀貴幸委員 ぜひ調査を実施して、網走市における物価高騰の影響はどのぐらいなのかっていう実態をつかんだ上で次の施策にそこはつなげていっていただくということが、よりよい事業を組み立てていくということにつながりますから、やっていただきたいと思えます。

そこで、改めて確認をしますが、先ほど、古田委員の質問に対する答弁で、

（8字取り消し）ということの発言があったのですけれども、あの発言は議事録からの削除を求めていることをなさるのですかね。発言自体を取り消すということなのですかね。

それとも、それはそれで実際（5字取り消し）という実態だから、そのままなのですかね。

○小田部照委員長 暫時休憩いたします。

午前11時14分休憩

午前11時14分再開

○小田部照委員長 それでは、再開いたします。

平賀委員の質問に対する答弁より。

○北村幸彦商工労働課長 金額の根拠でございます。

（5字取り消し）という、ちょっと表現で答弁させていただきましたが、後ほどまた答弁をさせてもらった中で、今回の交付金の配分額を1世帯当たりになると6,500円程度なので、きりのいいところで1万円にしたというところでございますので、（5字取り消し）というのは訂正をさせていただきたいと思えます。

○小田部照委員長 北村課長、議事録から削除という形でよろしかったですか。

○北村幸彦商工労働課長 議事録から削除ということをお願いしたいと思います。

○小田部照委員長 理解いたします。

○平賀貴幸委員 今回、きりのいいっていうのではなくて、答弁した内容が根拠ですからね、きりのいいのが根拠ではないですから、そこはどうかお願いします。

今回の事業については、市民にとっても必要なも

のだと思いますので、実施については私も理解していますが、やはり明確な根拠に基づいて税というのは使われていって、それが後の検証に耐え得るものでなければならないというのは、やはり行政に携わる者、それから我々議員の意識として持たなきゃいけないものだと思いますので、その辺を含めてですね、しっかりと検証できるような事業を進めていただきたいというふうに思いますが、非常に今のやり取りを聞いていても、決算審査特別委員会の続きじゃないですけれども心配です。いろいろ。

しっかりとその辺、精査をしながら事務を進めていただきたいと思うのですけれども、副市長いかがですか。

**○後藤利博副市長** ただいま平賀委員から御指摘がございました。

決算審査特別委員会のときにも申し上げましたけれども、一つの政策を打つ、これに対する検証というものが無いと、また次へのつながりというものがないというふうに考えてございます。

今、御指摘のありましたところを踏まえて、今後とも事務を進めていきたいというふうに考えてございます。

**○平賀貴幸委員** そこは共通の認識だというふうに思いますので、この案件について私は以上ですが、少しでも早く届くようにですね、職員の皆さんも大変な業務だと逆に思いますので、取り組んでいただきたいと思います。

以上です。

**○小田部照委員長** ほかの委員いかがでしょうか。

**○栗田政男委員** 感じる場所は同じようなことを感じるのですが、今回、ふるさと納税のほうの基金を少し足して事業を起こすということなのですが、国から来ている金額っていうのは、頭割りで来ているのか、人口当たりで来ているのかだと思うのですが、各自治体によって、この給付方法の差異は生まれているという理解でよろしいですか。

**○北村幸彦商工労働課長** 今回の国からの配分につきましては、人口割とかですね、その辺が考慮されている配分だと思っております。

ちょっと詳細までは私のほうで承知しておりますが、配分された枠の中での事業を考えたところでございます。

**○栗田政男委員** ということは、ほかのところはまだわからないと。

当然ね、ぎりぎりまで来ているのでわかるのです

が、僕が聞いたかったのは、いろんな裁量で、当局として自由に、それに上乗せするなり工夫するなり、現金にするのか商品券にするのか、いろんな工夫ができるような要素っていうのは、当然あるというふうな認識でいいのかな。

**○北村幸彦商工労働課長** 委員のおっしゃるとおりでございます。

**○栗田政男委員** そうすると、先ほど来言われているように、商品券にした理由も消費喚起ですから、貯金されては困るということだろうと予測はするのですが、推測するのですが、今までコロナで、この程度のことはやってきましたよね。

コロナも一つ、今ステージが変わりつつある時期に来ていると思います。

我々の行動抑制もしない中で、経済を回しながら、うまくそれに対抗していくという。

僕はもう、アフターコロナの入り口に入っているのかなっていう気がしているのですが、そういうことを考えると、今回は1世帯当たりということなのですが、何か不公平じゃない。

今で言うと、あれかな、大人っていうか有権者が一番把握が早いのかな、18歳以上の人達へ一律に商品券なり、現金の支給という方法も検討したかどうかかわかりませんが、そういう方法もあったのかなと思うのですが、どうでしょうか。

**○北村幸彦商工労働課長** 委員おっしゃるとおり、いろいろな手法の検討というのは考えられるところでございますが、今回、当局におきましては商品券を配布するという判断でございます。

**○栗田政男委員** 1世帯10人家族の1世帯、一人家族の1世帯がありますよね。

消費という部分を見ると、みんな使ってもらえれば消費という部分はクリアできる。公平さという部分は、どうかなと思うのですが、今までそういうことがいっぱいありました。

コロナの中は緊急時です。緊急時ですから細かいことは言わず、しっかりとスピーディーに支給するのが優先された部分はあるのですが、さっき言ったように、もうそろそろしっかり綿密な、そういう部分も検討しながらやる時期に来ているんじゃないかなっていうふうに思うのですが、どうも見ていると、前例にのっとってそのままやったような節が、なきにしもあらずなのですけれども、その辺についての見解を聞かせてください。

**○北村幸彦商工労働課長** 委員おっしゃることの理

解はできますが、今回につきましても世帯を対象にした商品券事業というところで提案させてもらったところでございます。

**○栗田政男委員** 世帯だからさ、それぞれあるわけでしょ。そうするとそこの中で不公平感、そこ言っちゃ切りがないのかもしれないけれども、世帯でやるという根拠っていうのも、やっぱり必要だよな。

なければ、10人とかそこも1万円の商品券ですよ、一人世帯の人も1万円。老人ホームに入っている一人世帯の人も当然1万円ですよな。

それで本当に、その辺について理由づけが僕はほしいような気がするのだけれども、何とも見えないところがあって、どうも公平感っていうのが薄いような気がするのだけれども、どうなの。

**○北村幸彦商工労働課長** 世帯構成でいろいろ様々ございますが、何か基準を設けなきゃいけないということもございまして、世帯当たりという形にしたところでございます。

**○栗田政男委員** 以前もその根拠がないといけなから、規制がないといけなからっていう課長から答弁を何度も頂いていて、そのときはのんでいるのだけれども、しょうがないなと。それしか答えられないのかなと思っているのだけれども、もうちょっと工夫してさ、その根拠が、なぜそこに根拠が必要なのかっていうところが、根拠、規制をかけないと何も決められないみたいな言い方っていうのは、ちょっといかなものかなっていうふうに思うので、今後、二度とその言葉は聞きたくないので気をつけてください。

本当にこれ多分国のほうで、単純に言うとな、いろんな政治的思惑で出されている部分が多いように感じます。

これは仕方がないのかなと思うし、実際そういうことで、今回、大きな予算で組まれていますので、それなりに消費というのは喚起されればすごくいいのかなというふうに思います。

今、観光のほうも始まっていますので、やっとスタートを切ってきて、どんどん人流が増えてくるのかなというふうに思うので、本当に、今回ね、市のほうの基金から繰り入れていますよね。

それも、珍しくちゃんとやったなと僕は思っているんだよね。今までだと国からの部分でそのままみたいなのが多かったんだけど、それはさっき言ったように、きりがいい1万円にするために措置を単純に繰り入れたという理解でいいのかな。

**○北村幸彦商工労働課長** きりがいいというよりも、計算上ですね、配分額に対しまして1世帯当たりが6,500円ということでございます。

この物価高騰の長期化もございまして、やはりもう少し上げて皆さんにですね、少しでも負担を少なくしてもらうために1万円という設定にしたところでございます。

**○栗田政男委員** それはすごくいいことだと思います。その部分だけを言うとな。

そういうふうにしてしっかりと考えるっていう創意工夫がありますし、今までだと何かその辺の工夫がなくて、国から来たものをただスライドしてやっているようなところがあったので、これ財政がいないとわからないけれども、その基金を使ったことに対して、まさか補填なんていうのはないのだよね。

**○北村幸彦商工労働課長** このふるさと寄附基金につきましても、使った分について補填というのはございません。

**○栗田政男委員** いずれにしてもね、時間がかかっているし12月ですから、先ほど来、質疑にもありましたけれども、もうちょっと早く何とかならないのかっていう気はするのだけれどもね、決めた以上は、臨時会を開いているわけですから1か月後ぐらい、遅くともそれぐらいに配れば一番いいのでしょうけれども。

なかなか、1か月後になるのか……ならないよね。1か月半ぐらい必要だという話も聞いていたので、それはしょうがないのかなと思いますが、いろんなことでね、こういう事業が来たときに僕は思うの。さっき質疑の中にもあったけれども、マーケティングが全然なされていないということなのですよ、市場調査が全然なされていないの。どういうものが今、市況に必要なのかっていうことを、皆さんは商工でしょう。商工って何のためにあるの。これ何度も僕は言っているのだけれども、本当に皆さんね、勉強する気がないよ、世の中の社会システム、それで今、回っているのだから。

少なくとも網走市、地元の企業たちがどういう状況にあるかっていうのは、皆さんが把握しないと政策を組んでも意味がなくなっちゃうのですよ。それがあると、違った形で創意工夫が出てくるので、まずそこからね、頑張ってください。

本当に役所の中にいたって、情報は入ってきませんから。お願いですからね、それは、関係機関、商

工会議所にみんな丸投げして、情報をもっているようでは、僕は全然進まないと思う。だからこういう政策になってくる、いろんな問題点が出てくるんだと思います。

しっかりやってください。

お願いいたします。

○小田部照委員長 答弁はよろしかったですか。

○栗田政男委員 はい。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

○平賀貴幸委員 すみません、一点聞き漏らしたので伺います。

9月9日にその通知が来て、それからなのですかね、実施計画を、たしか出すという形になると思うのですけれども、それはいつ頃出したのですか。

○北村幸彦商工労働課長 申し訳ございません。

私のほうでそちらの実施計画のほうは承知していないところでございます。

○平賀貴幸委員 財政なのか、企画で出すものなのかな。恐らくこの実施計画の中に、この事業をやるということを想定して出しているのだと思うのですよね。

国からは、八つの大きなメニューが示されていて、それ以外のものについても実施計画に記載してくれれば申請可能だっているふうに、資料でも書いてあるので、実施計画は出すのだと思うのですけれども、それを出した時期によっては9月の議会の会期末に間に合ったんじゃないかなと思うものですから伺っているのですけれども、どうなのでしょう。

○小田部照委員長 暫時休憩いたします。

午前11時29分休憩

午前11時29分再開

○小田部照委員長 それでは、再開いたします。

平賀委員の質問の答弁より。

○古田孝仁財政課長 ただいま、平賀委員より御質問のありました、コロナの交付金に関するところでございますが、今回、配分をいただいた通知が私どもには9月21日、メールで通知がありました。

国のほうでは、20日に閣議決定をされているという内容でございます。

それで、計画への登載でございますが、その額が示された後、どのようなことが地域として必要かという取組については、考える時間がございまして、計画についてはまだ申請はしておりません。

ただ、今回上程させていただいた内容の取組事項

を加筆というか、加えまして、今月中に出す予定としているところでございます。

○平賀貴幸委員 なるほど、実施計画は後から出すものなのですね、そうすると。先に出すものではないということでしょうか。

○古田孝仁財政課長 コロナの感染の状況によっていろいろな必要な取組というのは変わってきますので、先に計画に登載していても構いませんし、後日というか、配分額が決まった後にこういう使い方をしてもいいというのは、地方に任されているものでございますので、予算化の前に計画に上がっている場合もございまして、予算化した後に計画に上げる場合もあるというものでございます。

○平賀貴幸委員 理解はさせていただきました。

内閣府の通知は9月9日ですけれども、都道府県を通ってきたのが多分もっと遅くなったということなのですね、きっと。その辺はわかりました。

時間的、スキーム的にも難しかったということも含めて理解させていただきました。

以上です。

○小田部照委員長 ほかの委員いかがですか。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、お諮りいたします。

議案第1号令和4年度網走市一般会計補正予算中、所管分、観光商工部関係分については、全会一致により原案可決すべきものとして決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

そのように決定させていただきます。

ほかに何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

それでは、これで総務経済委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午前11時35分閉会